

シリーズ第26回

笛吹市探訪

武田氏と笛吹市④

山梨岡神社(春日居町)

4月4日・5日に春日居町鎮目(しずめ)にある山梨岡神社で春季例大祭が行われました。

山梨岡神社は古代に創建され、祭神は大山祇命(おおやまずみのみこと)・高(たか)おかみの神・別雷神(わけいかづちのかみ)です。本殿(ほんでん)は室町時代に建てられ、重要文化財に指定されています。また、山梨岡神社は武田家累代の

氏神(うじがみ)として崇拝され、武田信玄が出陣(しゅつじん)のたびに、戦勝祈願をしたといわれています。

今回の笛吹市探訪では山梨岡神社に残されている武田家ゆかりの宝物や太々神楽(だいだいかぐら)を紹介いたします。

山梨岡神社には武田家より譲り受けた『社参(しゃさん)状』・『椀(わん)』・『禁制(きんせい)』等が残されています。

『社参状』は諏訪大社(すわたいしや)上社の神主あてに武田信玄が出した

文書です。

『穴山梅雪(あなやまばいせつ)』等が宝鈴を鳴らすために諏訪神社上社を訪れる』といった内容が書かれています。また社参状とともに武田信玄から譲り受けた『椀』(2個)も保管されています。椀には武田菱(たけだひし)〔武田家の家紋(かもん)〕等が描かれています。

『禁制を書いた板』には『御室(みむろ)山でかつてに木を切つたりする事を禁止する』と書かれています。

御室山は山梨岡神社の後にあり、古代より山自体が神として信仰されてきました。この板は武田信玄が天文(てんぶん)13年(1544)に山梨岡神社に与えた物の写しです。

これらの資料は山梨岡神社と武田家の深い信仰関係を表わしています。

また山梨岡神社の太々神楽(だいだいかぐら)〔山梨県指定文化財〕は、二十四種の舞があります。例大祭では『天の岩戸(いわと)』の故事を中心とした古事記(こじき)神話の世界を一日で表現します。このうち、20番目に舞う『四剣(しけん)の舞』は『久米舞(くめまい)』とも呼ばれています。4人で剣と鈴を持ち勇壮に舞う神楽です。この舞は神武(じんむ)天皇が大和(やまと)で勝利を祝う宴会(えんかい)をした時に、久米氏の兵士たちが天皇のつくった詩歌を歌いながら舞ったことに由来しています。

また『四剣の舞』は『武田信玄出



〔写真上〕山梨岡神社の本殿
〔写真下〕椀(山梨岡神社所有)



四剣の舞(県立博物館で撮影)



山梨岡神社太々神楽(神楽殿)

陣の神楽』とも呼ばれ、信玄が戦いの勝利を願って奉納させた神楽だと言われています。

山梨岡神社太々神楽は武田神社春季例大祭等でも奉納されています。

また山梨県立博物館特別展『よみがえる武田信玄の世界展』・『信玄、謙信、そして伝説の軍師』の伝統芸能実演でも披露され、来館者を喜ばせました。